様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月 ２４ 日現在

機関番号：３２６７５
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０２５９８

研究課題名（和文）「脚本クロニクル」サイト構築とその教育活用および国際発信

研究課題名（英文）Construction of the "Screenplay Chronicle" website and its educational use and international dissemination

研究代表者
藤田　真文（Fujita, Mafumi）

法政大学・社会学部・教授

研究者番号：６０２２９０１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,700,000円

研究成果の概要（和文）：　研究公開促進費（データベース）を利用した脚本データベース構築作業と並行して、第一次資料の脚本を収集し、その分析研究を日本大学芸術学部、東京大学大学院情報学環等と連携し行った。国立情報学研究所の高野明彦研究室と連携して、放送研究またはその他の人文・社会科学分野の研究にとって有用なデータベースの仕様について検討した。
　また、脚本研究の対象となる脚本家のオーラルヒストリーをインタビュー調査により収集し、脚本家の情報を深める「個別アーカイブ」を作成した。講師に脚本家を迎えた小学生・中学生向けの脚本講座を実施し、教育活用のあり方を検討した。年度末にシンポジウムを実施し、当該年度の活動報告を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　放送脚本とは番組制作時に使用され一般に公開されない内部資料であり、近年、文化関係資料としてその価値が見直されている。本研究では脚本を収集するとともに、脚本家に焦点をあてたオーラルヒストリーを実施し、インタビューや脚本を公開するWeb版「脚本クロニクル」を作成した。
　脚本の体系化により①放送史を読み解き、②当時の社会・家族関係をとらえ、③言語学の見地より言葉の変遷も可視化できることがわかった。また④映像と脚本の対比研究、創作やセリフ実演等を教育現場で試行し、国語やコミュニケーション教育での実用化を検討した。さらに「脚本クロニクル」を多言語化し日本の放送文化アーカイブとして国際発信を目指した。

研究成果の概要（英文）：　Parallel with the construction of a screenplay database using the Research Publication Promotion Funds (database), we collected screenplays as primary sources and conducted analysis and research on them in collaboration with the Nihon University College of Art, the University of Tokyo III and GSII, and others. In collaboration with Akihiko Takano's laboratory at the National Institute of Informatics, we discussed the specifications of a database that would be useful for research in broadcasting and other humanities and social sciences.
　We also collected oral histories of screenwriters for screenplay research through interview surveys and create "individual archives" to deepen the information on screenwriters. Scriptwriting courses for elementary and junior high school students were held with a scriptwriter as a lecturer, and its educational use was discussed. We held symposium at the end of the fiscal year to report the activities of the year.

研究分野：メディア研究　マス・コミュニケーション研究

キーワード：　脚本　　データベース　アーカイブ　　教育利用　　国際発信

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)研究の学術的背景

研究の学術的背景は、放送脚本を一次資料として保存（散逸の危機にある現物脚本の救済とオーラルヒストリーの継承）することにあった。

日本における放送は、ラジオ放送開始から 92 年、テレビ放送開始 64 年目を迎え各局においてアーカイブ等の施設が整ったように見える。しかし、1980 年以前の映像に関しては、生放送時代はもちろん、録画放送の登場後もビデオテープが大変高価だったため、上書き撮影が義務付けられ映像の保存は極めて少ない。またラジオ放送も同様に、録画技術が発達する以前の音声は少なく、残存していても録音機器の変遷により再生が難しい現状である。当時の放送記録は唯一、脚本でのみ知ることができる。その一方で、放送局内部において脚本を体系的に保管している状況になく、一般には公開されておらず研究者も容易に閲覧できない。放送脚本を収集保存し、公共機関等で一般公開することは「脚本アーカイブズ活動」と位置付けられる。本研究においては、脚本アーカイブズ活動およびその活用研究を行う。

また、テレビ草創期を語ることができる永六輔氏、大橋巨泉氏等の脚本家・放送作家が次々に逝去し、放送の業績を伝える語り部が残り少なくなっている。放送文化の証言を語り継ぐ「オーラルヒストリー」の実施もまた急務といえる。脚本現物と証言を後世に継承するため、まず一次資料としての「放送文化資料」保存を第一段階の研究目的とする。

本研究には、10 年間にわたり放送脚本を収集し、国立国会図書館等へ寄贈し公開してきた、一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム（代表理事：脚本家池端俊策、以下「脚本アーカイブ」とする）が全面協力し、現在収集済みの 7 万冊の脚本の書誌データの提供、およびオーラルヒストリー実施の脚本家選定、著作権処理などを担当する。脚本アーカイブの理事には放送局や著作権管理団体、評論家も加わっており、実務的および学術的背景は盤石といえる。

２．研究の目的

(1)「脚本クロニクル」の構築

一次資料としての脚本を活用するため、書誌のデータ化、典拠記録の付加、現物の所在情報等を掲載公開する。脚本は長期保存を予定していないため紙質が悪く、酸性劣化が顕著である。本研究では、これらをデジタル化し、さらに脚本家に焦点をあてたオーラルヒストリーの画像と共に公開するサイト「脚本クロニクル」を作成し、一次資料との相互補完を図る。

このサイトにより各脚本家がどの時代に活躍したか、その時代背景や社会現象を可視化でき、放送と社会の相関関係を社会学的見地からも考察できる。

(2)「脚本クロニクル」の利活用（エンターテイメント・エデュケーションのモデル）

①初等・中等教育対象の活用モデル

本研究の着想は、研究協力者となる脚本アーカイブズの教育活用モデルが原型となっている。脚本アーカイブズでは、過去 5 年間にわたり、公立中学校における創作・実演授業（文化庁委託研究事業報告書「文化関係資料アーカイブ構築の調査研究」2012～2016 に掲載）、および小学生向けのタブレットを使用した映像制作ワークショップ「ワン・ミニットムービー～冒険物語を作ろう！～」を実施し大きな反響と成果を得ている。

スマートフォンや無料通話アプリの普及により、コミュニケーションは大きく変化している。しかし、創作の世界を介することで参加者の距離が縮まり、コミュニケーションがスムーズに行われることが実感される。自発的な学びを「エンタテイメント・エデュケーション」モデルによ

り実現することを目的とする（初等・中等教育）。また、学習障害やコミュニケーション障害における教育についても、エンタテイメントを介することで成果が得られると考えている。

②研究者や高等教育対象の活用モデル

・オーラルヒストリーと脚本閲覧により、放送史や社会、経済を読み解くことができる。（例：クイズ番組→経済・社会、音楽番組→流行歌、ドラマ→戦争表現、社会現象）

・また言語学の見地より、日本語の変遷をコーパス研究により読み取ることができる。（例：女性の男言葉化、語尾の変遷。「バツイチ」等の新語の出現）

(3)「脚本クロニクル」の国際発信

作成した「脚本家クロニクル」をインターネット発信するとともに、海外の日本研究者のために多言語化を行い広く活用されることを目的とする。海外研究機関との連携プロジェクト「J シナリオプロジェクト」を立ち上げる。

(4)全国に分散する脚本の統合検索「脚本の統合検索サイト」への連携

脚本は「地域資料」として公共図書館の約 100 館で 1 万冊近く保存され、文学館や博物館、大学など分散保存されている。これらの所在状況を調査し、全国の脚本を統合検索するサイトの作成が今後の課題となる。本研究では、その基礎研究を行う。

(5)過去の放送番組データを網羅した「放送番組データベース」への発展

本研究で提案している内容は、存在する一次資料のデータである（目録）。よって、現物が存在しない放送番組についての公式なデータベースは存在していない。ＮＨＫは「ＮＨＫクロニクル」として、全放送データをインターネット公開しているが、民放各局においては、社内用の資料としてデータベース化されている場合はあるが公開されていない。総務省にも存在しないことがわかっている。ラジオ放送開始 100 周年・2025 年に向け、放送番組データベースを立ち上げるべく基礎研究を行う。

３．研究の方法

(1)研究の方法の概要

本研究は①「脚本クロニクル」作成による脚本の体系化の研究　②「脚本クロニクル」の教育活用（エンタテイメント・エデュケーション）の試行　③「脚本クロニクル」の国際発信、以上３つの軸を４年間で行う。①脚本クロニクルは、一次資料 7 万件の書誌と新規収集予定の脚本資料をデジタル化し WEB 公開すると共に脚本家のオーラルヒストリーを撮影し搭載する。②教育活用については、国語やコミュニケーション教育、クラブ活動内でエンタテイメントを活用したワークを試行する（初等・中等教育、学習障害者対象）。また NHK アーカイブスや日本放送作家協会等の連携により、映像と脚本の対比研究を実施（研究者・高等教育対象）。③脚本クロニクルの多言語化および国際発信を行い、国内での国際シンポジウム開催により広く発表する。

(2)研究体制・組織

①「脚本クロニクル」作成

・法政大学を活動拠点に、第一次資料の脚本を収集し、データ化するとともに、その分析研究を日本大学芸術学部、東京大学大学院情報学環等が連携し行う。

・また、脚本収集を長年行ってきた「脚本アーカイブズ推進コンソーシアム」（事務局：日本放送作家協会内）と連携し、整理作業、デジタル化、さらに著作権処理を協働で行なう。

②オーラルヒストリー

・日本放送作家協会の協力により、放送研究者と共に脚本家を選別し実施する。

・撮影は研究分担者と指導する大学院生が行う。

③サイトの設計

・NHK 放送文化アーカイブ、渋沢敬三アーカイブ連想検索システムを構築等、数々のコンテンツを手掛けている国立情報学研究所所属の研究分担者が設計を行う。単なるデータベースではなく、脚本家や作品を立体的に可視化できるサイトを目指す。

④教育利用

・講師に脚本家を迎え、初等・中等教育およびコミュニケーション教育を実施する。

⑤研究利用

・研究者による映像研究は、東京大学大学院情報学環に所属する研究分担者を中心に分析研究を行う。ドラマやドキュメンタリーなど幅広く脚本を活用する。

・また言語学研究は 2016 年まで国立国語研究所に所属していた研究分担者が担当。コーパス研究を中心に言語学の見地から脚本を読み解く。

４．研究成果

(1)一次資料としての脚本資料保存

(平成 29 年度)新たに約 6000 冊の脚本の寄贈を受け入れた。追記入力含め 8000 件のデータを入力し、データベース化した。新規データベースに 1 万件のデータを移行掲載した。

(平成 30 年度)一次資料としての脚本資料保存については、当該年度の研究目標であった、追記入力含め 8000 件のデータを入力し、データベース化した。新規データベースに 1 万 1000 件のデータを移行掲載することができた。

(令和元年度)追記入力含め 54,688 件のデータ入力を完了し、データベース化した。新規データベースに 1 万件のデータを移行掲載した。

(令和２年度)追記入力含め 33,024 件のデータ入力を完了し、データベース化した。

(2)「脚本クロニクル」の構築

(平成 29 年度)

一次資料としての脚本を活用するため、書誌のデータ化、典拠記録の付加、現物の所在情報等を掲載公開する作業の一環として、900 冊の脚本表紙・スタッフ・キャストの画像をデジタル化した。アーカイブ利用を促すインターフェースの開発のため、試行的に時代劇『水戸黄門』の脚本に登場した舞台を地図上にプロットして検索できるシステムを作成した。すでに構築していた『永六輔バーチャル記念館』のインタビュー音声を文字起こしして、テキストも掲載できるようにした。

(平成 30 年度)

①書誌のデータ化、典拠記録の付加、現物の所在情報等を掲載公開する作業の一環として、300 冊の脚本表紙・スタッフ・キャストの画像をデジタル化することができた。②脚本データベースのβ版を完成させ、2019 年 3 月に公開することができた。

(令和元年度)

①一次資料としての脚本を活用するため、書誌のデータ化、典拠記録の付加、現物の所在情報等を掲載公開する作業の一環として、900 冊の脚本表紙・スタッフ・キャストの画像をデジタル化した。②脚本データベースの公開に向けたサイトの改修を行った。

(令和２年度)

オーラルヒストリー実施脚本家の中から、脚本研究の対象となる脚本家・作品を取り上げ、脚本家の情報を深める「個別アーカイブ」を作成した。

(3)「脚本クロニクル」の利活用(エンターテイメント・エデュケーションのモデル)

(平成 29 年度)

①初等・中等教育対象の活用モデル:(ⅰ)中学校でのオーディオドラマ作成講座、(ⅱ)ショートムービー実演講座、③アフレコ講座を開催し多数の小学生中学生の参加があった。

②研究者や高等教育対象の活用モデル:(ⅰ)次の脚本家のオーラルヒストリーを蓄積した(敬称略)。奥山侊伸(インタビュー)、布勢博一、山田太一、竹内日出男(収録済データを掲載)。(ⅱ)日本語の変遷のコーパス研究では、試行的な研究として『市川森一ノスタルジックドラマ集』『市川森一メメント・モリドラマ集』をテキスト化し、計量言語学的分析を試みた。

(平成 30 年度)初等・中等教育対象の活用モデルのオーディオドラマ作成講座、ショートムービー実演講座、アフレコ講座に多数の小学生中学生の参加があった。研究者や高等教育対象の活用モデルでは、羽原大介、伴一彦、池端俊策のオーラルヒストリーを蓄積することができた。日本語の変遷のコーパス研究では、試行的な研究として『市川森一ノスタルジックドラマ集』『市川森一メメント・モリドラマ集』をテキスト化し、計量言語学的分析を継続して行なった。

(令和元年度)初等・中等教育対象の活用モデルのオーディオドラマ作成講座、ショートムービー実演講座、アフレコ講座を引き続き実施し、多数の小学生中学生の参加があった。研究者や高等教育対象の活用モデルとしては、脚本家・冨川元文のオーラルヒストリーを蓄積した。

(令和２年度)初等・中等教育対象の活用モデルのオーディオドラマ作成講座、ショートムービー実演講座、アフレコ講座を引き続き実施し、多数の小学生中学生の参加があった。

(4)「脚本クロニクル」の国際発信

(平成 29 年度)「脚本家クロニクル」を国際的にインターネット発信するために、トップページの英語訳、中国語(簡体字)訳を行った。

(5)成果報告シンポジウムの実施

(平成 29 年度)「脚本アーカイブズ・シンポジウム 2018」を 2018 年 3 月 22 日に法政大学で開催し、2017 年度の成果報告を行った。研究代表者・藤田真文が研究チーム立ち上げの趣旨、研究分担者・高野明彦がアーカイブス設計・構築の作業報告、来年度取り組む脚本の計量言語学的分析の方法について、研究分担者・丸山岳彦が報告した。

(平成 30 年度)「脚本アーカイブズ・シンポジウム 2019」を 2019 年 3 月 23 日に法政大学で開催し、2018 年度の成果報告を行った。アーカイブス設計・構築の作業報告、『市川森一ノスタルジックドラマ集』『市川森一メメント・モリドラマ集』計量言語学的分析の結果を研究分担者・丸山岳彦が報告した。

(令和元年度)「脚本アーカイブズシンポジウム 2020」を 2020 年 3 月 20 日に法政大学で開催予定であったが、コロナウィルス感染拡大のため急遽開催を中止した。

(令和２年度)「脚本アーカイブズシンポジウム 2021：脚本を残し未来に語り継ぐこと」を 2021 年 2 月 14 日にオンラインで開催した。今年度の活動報告、鼎談「脚本アーカイブズのさらなる展開に向けて」(登壇者として研究分担者・高野明彦、吉見俊哉が参加)、パネルディスカッション「脚本に込められた想いとは」(司会として研究代表者・藤田真文、登壇者として研究分担者・岡室美奈子が参加)が主な内容であった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 藤田真文	４．巻 622
２．論文標題 21世紀の断片 ： テレビドラマの世界(第1回)現代女性像(1)結婚をめぐって	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Galac = ぎゃらく	６．最初と最後の頁 40,43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岡室 美奈子	４．巻 53(2)
２．論文標題 捨てられた子ども、裁かれる「母」 ： 『万引き家族』から『Mother』を考える	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ユリイカ	６．最初と最後の頁 115,125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉見俊哉	４．巻 25
２．論文標題 インタヴュー 近代という祝祭の行方 ： 万博・オリンピックと戦後日本（特集 〈復興と祝祭〉の資本主義 ： 新たな「災後」を探る）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 唯物論研究年誌	６．最初と最後の頁 8,31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小林直毅	４．巻 67(4)
２．論文標題 水俣の猫をめぐる記憶	５．発行年 2021年
３．雑誌名 社会志林	６．最初と最後の頁 69, 95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡室 美奈子	4．巻 52(12)
2．論文標題 祈りの演劇 ： 別役実とベケット	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ユリイカ	6．最初と最後の頁 47,55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丹羽美之	4．巻 49(3)
2．論文標題 テレビ人 この言葉、あの言葉 第10回／ウルトラマン。本籍地、沖縄。	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『民放』	6．最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丹羽美之	4．巻 49(5)
2．論文標題 テレビ人 この言葉、あの言葉 第11回／あなたはもう活字ではない	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『民放』	6．最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丹羽美之	4．巻 50(2)
2．論文標題 テレビ人 この言葉、あの言葉　第12回／あらゆる新しいこと、美しいこと、素晴らしいことは一人の人間の熱狂から始まる	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『民放』	6．最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤田真文	4．巻 49
2．論文標題 『北区赤羽』と『カンヌ』 ：達成なき成長物語（総特集 山田孝之(TAKAYUKI YAMADA)）--（彷徨する山田孝之 ：『赤羽』『カンヌ』そして『3D』へ）	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ユリイカ	6．最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤田真文	4．巻 581
2．論文標題 テレビ東京の深夜 クリエイティビティが生まれる空間（特集 ドラマよ、"枠"を超えろ!）--（テレビドラマの「定番枠」とは何なのか）	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Galac	6．最初と最後の頁 23-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丹羽美之	4．巻 550
2．論文標題 テレビ人 この言葉、あの言葉　第1回／世界は撮り尽くされたか？	5．発行年 2017年
3．雑誌名 民放	6．最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丹羽美之	4．巻 551
2．論文標題 テレビ人 この言葉、あの言葉　第2回／記録というものは『読み人知らず』であってはならない	5．発行年 2017年
3．雑誌名 民放	6．最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丹羽美之	4．巻 552
2．論文標題 テレビ人 この言葉、あの言葉　第3回／ドラマも人間と同じで、欠点を含めて一つの存在なのである	5．発行年 2017年
3．雑誌名 民放	6．最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丹羽美之	4．巻 553
2．論文標題 テレビ人 この言葉、あの言葉　第4回／ドキュメンタリーとは、人間が生きるための闘いである	5．発行年 2017年
3．雑誌名 民放	6．最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丹羽美之	4．巻 555
2．論文標題 テレビ人 この言葉、あの言葉 第5回／『笑い』のつくりはジャズと似ているんです	5．発行年 2018年
3．雑誌名 民放	6．最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　5件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 中町綾子
2．発表標題 ニューノーマル時代のテレビドラマ　～今こそ共有したい、あの時とこれから～
3．学会等名 国際ドラマフェスティバル・シンポジウム（招待講演）
4．発表年 2020年

１．発表者名 中町綾子
２．発表標題 ここから始まる新しいテレビドラマ
３．学会等名 国際ドラマフェスティバル・シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中町綾子
２．発表標題 ここから始まる”新しい”テレビドラマ～企画提案カンファレンス
３．学会等名 国際ドラマフェスティバル・シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中町綾子
２．発表標題 ここから始まる新しいテレビドラマ
３．学会等名 国際ドラマフェスティバル・シンポジウム
４．発表年 2017年

１．発表者名 丹羽美之
２．発表標題 丹羽美之著『日本のテレビ・ドキュメンタリー』書評会
３．学会等名 日本マス・コミュニケーション学会第37期第5回研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 丹羽美之
２．発表標題 民放アーカイブの利活用に向けてー『NNNドキュメント』を事例にー
３．学会等名 日本マス・コミュニケーション学会2020年度秋季大会（ワークショップ）
４．発表年 2020年

１．発表者名 丹羽美之
２．発表標題 番組アーカイブの意義と未来への活用2020～“戦後75年”広島、長崎、沖縄からの報告～
３．学会等名 放送番組センター公開セミナー
４．発表年 2020年

１．発表者名 丸山岳彦
２．発表標題 複数の脚本コーパスに現れた終助詞の比較分析
３．学会等名 言語資源活用ワークショップ2019（LRW2019）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松下晶子・丸山岳彦
２．発表標題 脚本テキストに基づくコーパス文体論の可能性 ―テレビドラマ脚本に注目して―
３．学会等名 言語資源活用ワークショップ2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 松下晶子・丸山岳彦
２．発表標題 言語学から見た脚本アーカイブズの可能性
３．学会等名 脚本アーカイブズシンポジウム2019『脚本で振り返る「平成」という時代』（招待講演）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計8件

１．著者名 丹羽美之・藤田真文（丹羽美之編）	４．発行年 2020年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 1344
３．書名 NNNドキュメント・クロニクル　1970-2019	

１．著者名 丹羽美之	４．発行年 2018年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 328
３．書名 近代日本メディア人物誌―ジャーナリスト編	

１．著者名 中町綾子	４．発行年 2020年
２．出版社 日本演劇協会	５．総ページ数 386
３．書名 演劇年鑑2020	

１．著者名 中町綾子	４．発行年 2021年
２．出版社 日本演劇協会	５．総ページ数 386
３．書名 演劇年鑑2021	

１．著者名 中町綾子	４．発行年 2019年
２．出版社 国際演劇協会	５．総ページ数 356
３．書名 国際演劇年鑑2019	

１．著者名 中町綾子	４．発行年 2020年
２．出版社 国際演劇協会	５．総ページ数 372
３．書名 国際演劇年鑑2020	

１．著者名 中町綾子	４．発行年 2021年
２．出版社 国際演劇協会	５．総ページ数 388
３．書名 国際演劇年鑑2021	

１．著者名 藤田真文	４．発行年 2019年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 244
３．書名 アーバンカルチャーズ―誘惑する都市文化,記憶する都市文化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本の放送番組・アニメーションから見る　脚本データベースと日本の脚本家たち
https://basdj.nkac.or.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高野　明彦 (Takano Akihiko) (00333542)	国立情報学研究所・コンテンツ科学研究系・教授 (62615)	
研究分担者	丹羽　美之 (Niwa Yoshiyuki) (00366824)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・准教授 (12601)	
研究分担者	岡室　美奈子 (Okamuro Minako) (10221847)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小林　直毅 (Kobayashi Naoki) (10249675)	法政大学・社会学部・教授 (32675)	
研究分担者	吉見　俊哉 (Yoshimi Syunya) (40201040)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授 (12601)	
研究分担者	中町　綾子 (Nakamachi Ayako) (80287672)	日本大学・芸術学部・教授 (32665)	
研究分担者	丸山　岳彦 (Maruyama Takehiko) (90392539)	専修大学・国際コミュニケーション学部・教授 (32634)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関